

令和3年度 第1回三田市環境審議会 議事概要

会議の名称	令和3年度 第1回三田市環境審議会		
会議の日時	令和3年8月31日(火) 18:00～19:20		
会議の場所	三田市役所 2号庁舎 2階 2201 会議室		
出席した委員の氏名	佐藤 裕司委員、石田 弘明委員、佐山 浩委員、 安田 潤平委員、阪本 浩司委員、山田 敏雄委員、 木下 勝功委員、秦 亮人委員		
出席した庶務職員の職 及び氏名	事務局	まちの再生部	久高部長
		環境共生室	川田室長
		環境創造課	辻下課長、辰巳係長、寺嶋主任
傍聴者の人数	0名		
取材者の人数	0名		
議題	1. 開会 2. 挨拶 3. 議事 ①三田市環境審議会規則第4条に規定する部会の設置について ②第3次三田市環境基本計画の進捗管理について ③その他 4. 閉会		
会議の概要	・三田市環境審議会規則第4条に規定する部会の設置について、説明を行い、それに対する質疑を行った。部会の委員選出については、欠席委員も含め個別に相談する。 ・第3次三田市環境基本計画の進捗管理の概要について説明を行い、それに対する質疑を行った。		
公開・非公開の区分	公開		
使用した資料の名称	▶三田市環境審議会 カーボンニュートラル推進方策検討部会設置要綱(案) ▶第3次三田市環境基本計画の進捗管理まとめ ▶第3次三田市環境基本計画取り組み評価シート		
連絡先			

■議事:

三田市環境審議会規則第2条第2項の規定により、佐藤会長が進行

①三田市環境審議会規則第4条に規定する部会の設置について

(事務局) 資料について説明

(委員) 今回設置される部会はカーボンニュートラルに関わることだと思うが、その上に三田スマートシティ構想というものが市であるのか。

(事務局) スマートシティ構想があり、その中で部会を立ち上げる。そのうちの 하나가環境エネルギー部会である。この環境エネルギー部会は、計画を立てる部会ではあるが、ゼロカーボンの実現にデジタル技術をどのように活用するかが命題でもある。

(委員) 三田里山スマートシティ構想の骨格などはホームページで見れるのか。

(事務局) 今日資料としては持ってきていないが、ホームページで見ることができる。

(会長) 現在の環境基本計画を次年度策定していかなければならないが、今回の検討部会で検討した結果が、次の環境基本計画の中に取り込まれるということになる。今回の部会の組織は、次期環境基本計画の検討部会も兼ねるとい形になると思う。
委員の選出の必要があるが、審議会の中から4名選出で、学識委員については、2名選出なので、石田委員と佐山委員にお願いしたいと思うがよいか。

(委員) 了承した。

(会長) 残り1名ずつ各種団体と市民委員から選出になるが、今日は欠席もあるし、団体によっては任期があると聞いている。
また、個別に相談させていただくことでよろしいか。

(事務局) 事務局で欠席者も含めて、打診させていただく。

②第3次三田市環境基本計画の進捗管理について

(事務局) 資料について説明

(委員) 「ホームページアクセスの大幅な増加」となっているが、これは、環境全般のホームページのアクセス数のことだと思うが、全般ではなく、細かいレベルで個別のどのページが増えているのかがわかっているのか。

2 点目、飼い主のいない猫対策の補助金制度の創設について、新たな市民ボランティアと説明があったが、ボランティアは個人なのか、団体なのか。個人ボランティアであれば、永続的に活動するのは難しいと思う。

(事務局) ホームページについては、環境創造課と里山のまちづくり課のアクセス数の合計を掲載している。個別ページごとのアクセス数は持ち合わせていない。今後、個別のページのアクセス数を広報で入手できるか確認したい。
飼い主のいない猫対策は、市内のボランティア団体 3 団体で構成している「三田市猫の連絡協議会」と連携している。

(委員) 「ホームページ以外にも情報発信手段の充実が必要」と課題にあがっているので、何に関心が持たれているかに応じて適当な手段があるので、その辺を踏まえて考えないと、対応にミスマッチが起こるので注意したほうがよい。

(会長) どのサイトがよく見られているかを把握することは、今後のホームページをどう充実していけばいいのかの参考になる。

(委員) ホームページ以外の情報発信について、市広報誌が充実してきたと感じるので、広報誌の活用も積極的にやってほしい。

(委員) クールチョイス関連の PR ホームページを整備したとなっているが、これを整備したことでアクセス数が大幅に増えたのかと想像していたが、必ずしもそうではないのか。もし、このクールチョイスのページがアクセス増加の要因なのであれば、これを成果として、アクセス数がどれだけ増えたかが書き込まれていたら良いと思う。

(事務局) 個別ページごとのアクセス数を把握していないので、ここで成果については言えないが、クールチョイス関連のホームページは、今は、一般的なことしか書いていないページになっているので、今後ネットワーク会議などで動きがあればその都度掲載し、充実していく予定である。

(委員) 最初に説明のあったさんだ里山スマートシティのプラットフォームについて、「里山」とあるので環境基本計画と関連あるのか。もし、関連があるなら、「プラットフォームを立ち上げて、活動している」というのを評価シートに書き込んだ方がよいのではないか。

(事務局) 「里山」というのは三田市のテーマとなっているので、スマートシティのネーミングとしてつけているのではないかと思う。ここでいう「里山」とは三田全体のことで、プラットフォームの中には、農業やヘルスケア、福祉共生だったり、たくさんの部会がある。全ての市民生活において ICT 化を進めていくということである。

- (会長) 三田里山スマートシティという言葉、考え方自体が、環境基本計画の策定時にはなかったと思うが、これはいつからできたものなのか。
- (事務局) 今年度からできた。具体的に、部会を立ち上げるとなったのが7・8月からで、庁内全域で政策として進めている。市ホームページでもスマートシティ、プラットフォームの説明を掲載し、市民のみなさまにも周知しているところである。
- (委員) 1点目、県下、他市に誇れる先進的な取組があれば教えてほしい。
2点目、体験型のプログラムをコロナ禍で今後どうしていくか。
3点目、要望として、特定外来生物だけでなく、鹿など獣害対策が問題になっていて、それによって集落が段々と廃れていく、人が減っていくという現状がある。対策の取組をあげていただいているので、実際の農業者が、どれだけ効果があったかを評価できるよう、評価基準に入れてほしい。
4点目、農業の再資源化というところをうたわれていたので、たい肥化などをぜひお願いしたい。
- (事務局) 誇れる取組として、クールチョイスの取組については、広く市民に浸透していないのが現状ですが、クールチョイスネットワーク会議を市内企業の皆さんと組織していて、日本全国で先進的ではないかと思う。今年度は国の補助金を活用して、大々的にクールチョイスの取組を展開することを予定している。
コロナにより、プログラムの実績が減少していることについては、アフターコロナかウィズコロナになるかわからないが、ウィズコロナになるのであれば、開催の仕方も色々と工夫していく必要があると考える。ご意見いただいたので今後検討していきたい。
獣害対策については、実際の農業者の方の生の声を評価に組み込んではどうかというご要望として承った。
農業の再資源化については、クリーンセンターの新施設の話もあり、素案について明日からパブコメを開始する。たい肥化をすすめてほしいというご意見を頂戴したということを伝えておく。
- (委員) 保全活動や体験学習が可能な里山の数が7か所から9か所に増えたとなっているので、目標の8か所を既に達成している。再評価、目標値を変更してはどうか。市でも里山の魅力発見をする「まちはく」というのをやっていると聞いた。地域資源はたくさんあると思うので、2年で2か所増やすことができたなら、9か所にとどまらず、もっといけるところまでやればいいと思う。
コロナ禍で、参加型プログラムの評価を下げているが、コロナの収束を待つのではなく、先行き見えない中で何か対策をしていかないと、目標達成はできない。参加する皆さんも、オンラインも慣れてきていると思う。中止にならずに開催できることがあると思うので、考えていかないといけない。
クールチョイスなど、市民の協力がいるような事業の場合、個別具体的な指針を出さないと、「がんばろう」「減らそう」「脱炭素」と言われても、具体的に何をしたらいいのかわかりにくい。「これをする。そのためにはこれをしてほしい。」という重点

的なポイントを示さないと、参加する側もどうすればいいかわからないので、抽象的なメッセージではなく「これをしてください。」と具体的な強めなメッセージを出した方が良かったと思った。

(事務局) 目標値については、計画策定時に設定したものであるが、委員がおっしゃったように積極的に取組を進めていきたい。担当課には、市内にはポテンシャルがあって、市民のみなさんも期待されていると伝えておく。

講座については、どういう形で市民のみなさんにリアルに体験していただくかというのは課題だと思っている。今後も、実際色々と開催している他課などから情報収集に努めたい。

またクールチョイスやカーボンニュートラルなどの取組については、実際に、市民の方、事業者の方にどう動いていただくかについては、部会などで今後計画を検討していく中で、事務局の方でも具体的なわかりやすい取組を提案できるように努めたい。

(委員) 「北摂里山地域循環共生圏の中でバイオマスエネルギーの導入を検討」となっているが、どのような形で検討しているかを教えてほしい。

(事務局) 三田市は森林が多いところであるが、伐採したあとをどう活かしていくかを、宝塚市、川西市などと広域的に、研究しているところである。具体的に、三田市でどうしていくかというところは動いていない状況ではあるが、今後進めていく。カーボンニュートラルを進める中で、太陽光以外の再生可能エネルギーの検討をしていかなければならないので、このバイオマスを活用したエネルギーを推進していかないといけないと考えている。

(委員) 具体的な取組は進んでいなくとも、例えばチップの活用を検討しているなら、チップボイラーを導入するところを探すなど、ある程度の目安を作っておかないと、いざ実際に動く段階になって対応しきれない形になるので、県の温暖化対策課がやっている方向性を見た上で、市として今のうちに検討できることがあればやっておく必要があると思う。

(事務局) 三田市は森林面積が60%あるということだが、実際には活用ができておらず、現時点では、伐採して運搬して加工するという仕組みすらないような状況。具体的などころをまず取り組まないとなかなか進まないというご意見だったと思うので、計画を進める中で具体的に検討していきたい。

(会長) 三田市は木質チップを扱っている業者があるが、そこと連携するのは難しいのか。

(委員) 商売に乗らない木材というのがたくさんある。その木材をどういう流れで活かすかというのを検討してほしい。

(委員) 生物多様性地域戦略の策定のところで、3年間現況調査とあるが、どのように実施されているのか。

(事務局) 過去にレッドデータブックという生態系の調査をして、十数年たってどうなっているかという経年調査をしている。この経年調査が終わり、どのような戦略を立てるかというのが生物多様性地域戦略になる。

(会長) 生物多様性地域戦略の策定は、環境基本計画の中で一つの大きな目標になっているので、よろしくお願ひしたい。

③その他

(事務局) 審議いただいた部会の設置を11月頃に予定しているので、審議会委員を対象に、カーボンニュートラルに関する勉強会を開催したいと考えている。

(会長) 部会について、部会長の指名をするのが漏れていた。部会長は、環境審議会副会長の石田委員にお願ひしたい。

(委員) 了承した。

(会長) 意見がないようなので、これで議事を終了する。

■閉会

議事録については、後日、配布する。